



http://digitalarchiveproject.jp/information/安土城下の金森屋敷跡



(琵琶湖「西の湖」のほとりに金森屋敷はあった)

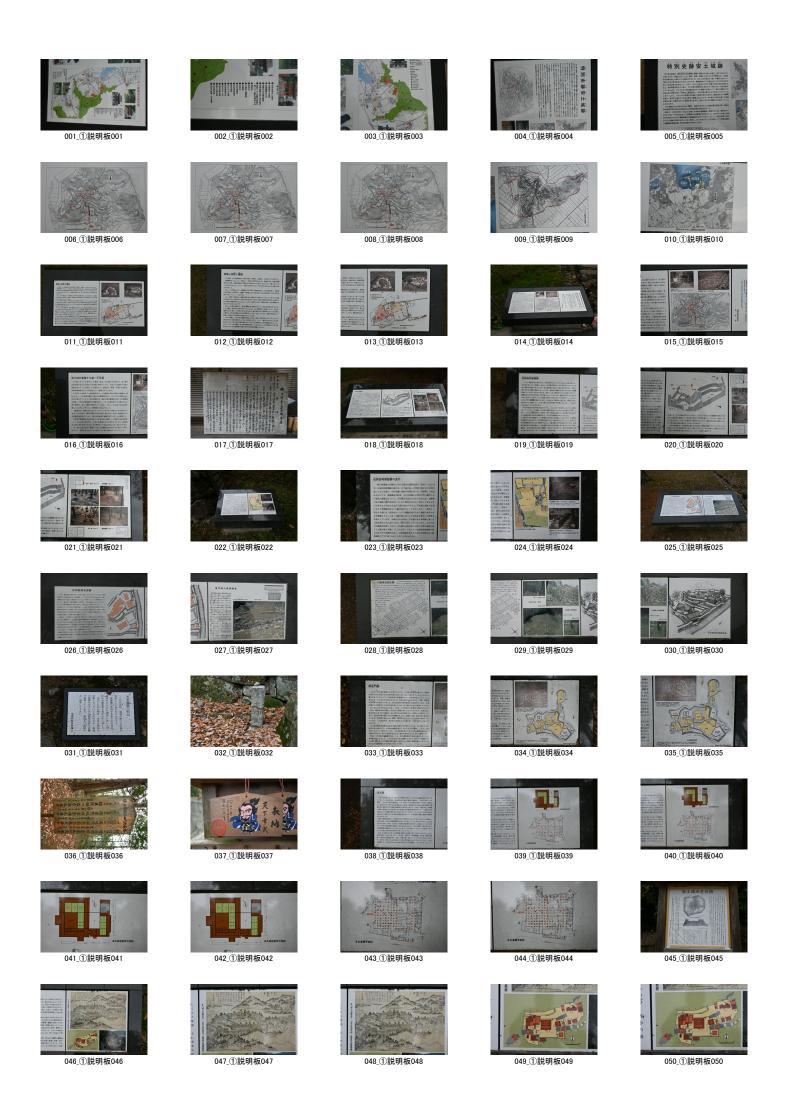
滋賀県近江八幡市安土町下豊浦

織田信長が安土城築城を命じたのは天正 4 年(1576)正月のことである。信長は同年 2 月に岐阜より安土城に移り、天守閣を 5 年で完成させている。安土城下は楽市楽座でにぎわい、武家屋敷も短期間に整備された。しかし、天正 10 年(1582)、本能寺の変で天守閣は焼失してしまった。

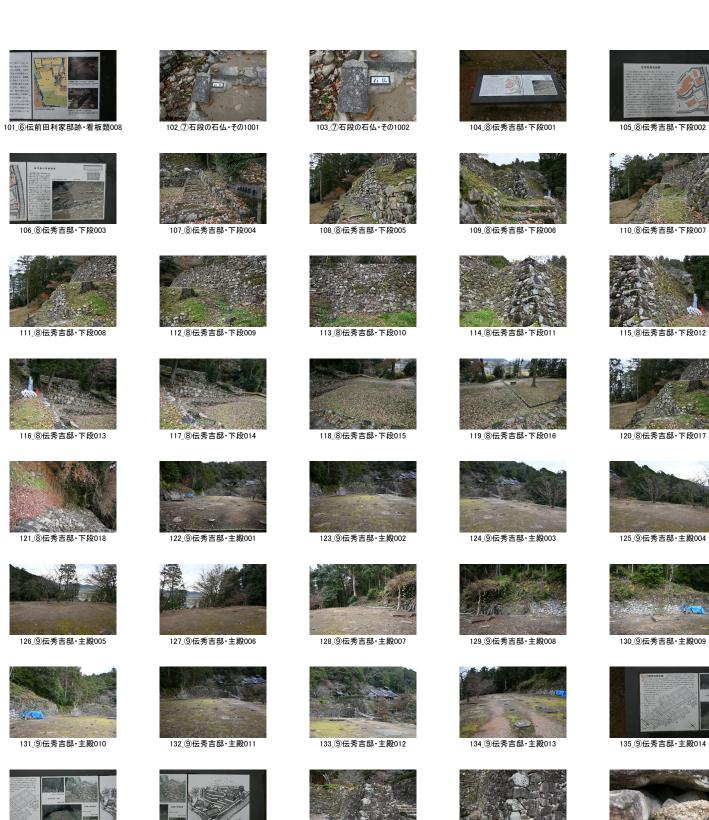
信長の重臣であった金森長近は安土城下に武家屋敷を構えていたが、その場所は長い間わからなかった。平成 24 年 (2012)、安土城の「遺跡発掘調査事務所」に調査を依頼したところ、「金森」の地名伝承が昭和 60 年(1985)に調査されていたことがわかった。そこは「西の湖」のほとりで、現在の町名は金森ではないが、住民の地名伝承により伝えられ続けてきたという。秀吉、家康、前田利家は安土城の城郭内部に屋敷を持っていたが、長近は湖のほとりに屋敷を構えていたことになる。この場所は琵琶湖の水上交通の要になるところであった。「金森」の地名が残る場所に、今は福祉施設が建つ。

図は「織豊期の都市法と都市遺構」小島道裕『国立歴史民俗博物館研究報告 第8集』第一法規出版株式会社 昭和60年12月20日発行の掲載図面による。

リーフレットより









136_⑨伝秀吉邸·主殿015

146_⑫大手その2・四方(総見寺・横)002

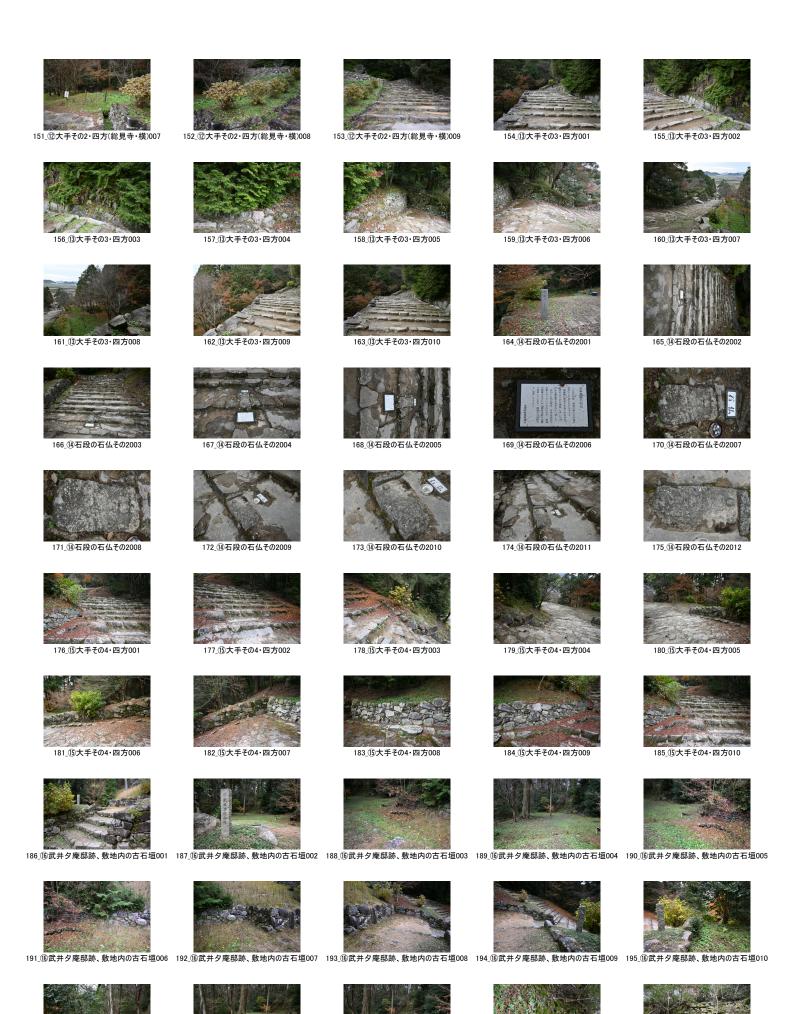




141_⑪秀吉邸主殿入口の石垣、裏込め石004142_⑪秀吉邸主殿入口の石垣、裏込め石005







196.⑥武井夕庵邸跡、敷地内の古石垣011 197.⑥武井夕庵邸跡、敷地内の古石垣012 198.⑥武井夕庵邸跡、敷地内の古石垣013 199.⑥武井夕庵邸跡、敷地内の古石垣014 200.⑥武井夕庵邸跡、敷地内の古石垣015







A CHARLE





203_⑪総見寺·墓地002





207_①総見寺·墓地006 208_⑱本丸と総見寺跡との分かれ道・四方001 209_⑯本丸と総見寺跡との分かれ道・四方002 210_⑱本丸と総見寺跡との分かれ道・四方003











211. ⑱本丸と総見寺跡との分かれ道・四方004 212. ⑱本丸と総見寺跡との分かれ道・四方005 213. ⑱本丸と総見寺跡との分かれ道・四方006 214. ⑱本丸と総見寺跡との分かれ道・四方007 215. ⑱本丸と総見寺跡との分かれ道・四方008











216_個本丸と総見寺跡との分かれ道・四方009217_個本丸と総見寺跡との分かれ道・四方010





224_@黒金門入口·四方002



221_¹⁹大手·黒金門手前004



222_¹⁹大手·黒金門手前005

223_@黒金門入口·四方001











226_@黒金門入口·四方004



228_@黑金門入口:四方006



229_@黒金門入口·四方007 230_御黒金門入口・四方008



232_@黒金門入口·四方010

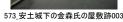


571_安土城下の金森氏の屋敷跡001













576_安土城下の金森氏の屋敷跡006

577 安土城下の金森氏の屋敷跡007



580_安土城下の金森氏の屋敷跡010

578_安土城下の金森氏の屋敷跡008

579_安土城下の金森氏の屋敷跡009